

(3) 先進的なICT利活用事例にみる技術動向

北陸地域における先進的な情報通信システム事例として現地調査を行った南砺市や敦賀市は、地域密着型の情報受発信形態を模索し整備を進めてきた地域であり、そのモデル性は高い。

ア 南砺市と敦賀市の取り組み

南砺市や敦賀市において構築されている官民協働型のポータルサイト「なんと-e.com」(なんとといどっとこむ) URL:http://www.nanto-e.com/ や「みねっと」URL:http://www.rcn.ne.jp/ は、行政や民間のさまざまな情報がCMSを通じ網羅されており、地域密着型のポータルサイトを地域全体が連携して行っている事例となっている。「なんと-e.com」、「みねっと」のWebブラウジング画面は以下の図のとおりである。

【なんと-e.com】



【みねっと】



URL : http://www.rcn.ne.jp/

URL : http://www.nanto-e.com/

イ 地域密着型情報配信の特徴

南砺市や敦賀市のポータルサイトは、提供されている情報が「行政情報」をはじめとして、「買い物情報」、「市民ブログ」、「イベント情報」、「天気・公共交通」、「地域の回覧板」などの地域情報をきめ細かく網羅され、配信されている。地域の「生活」に密着していることが、より多くの住民の利用につながっていると言える。

これは、行政のみでは集約しきれない生活全般に関わる情報は利用者参加によって収集されていることが、ポータルサイトの魅力となっているもので、Web2.0の特徴とも言える「利用者参加」、「オープン志向」という2点を、両市のポータルサイトは有している。

このような取組を進めることにより、欲しい商品が地元で購入できたり、住んでいる町内や通っている学校のお知らせがテレビで閲覧できるなど、住民一人ひとりに合った情報やサービス提供を可能にしている。

ウ 効率的な情報配信を行なうためのトランスコーディング技術

南砺市、敦賀市の両事例では、様々なシステム同士が連結し、データを補完し合っている。そして、必要に応じて個人が必要とするデータを膨大な情報の中から抽出し、個人が望む媒体の形に整形して情報を提供することが可能となっている。両市では、こうした必要な情報を必要な媒体に配信する仕組みの実現を目指し、トランスコーディング技術（マルチコンテンツ利用技術）を活用している。

両市のトランスコーディング技術は、CMSにより収集・格納された情報を媒体に適応したテンプレートデザインと組み合わせてサーバサイドで動的にページ生成する手法である。トランスコーディングにより、Webブラウジング用のポータルサイトをはじめとした多様なニーズ（情報受発信媒体）に合わせて情報を配信することを可能にしている。

また、トランスコーディングを進めることにより、情報配信のために必要とされる技術や時間（コスト）が大幅に軽減されることから、裾野の広い情報収集と効率的な情報伝達を行うことが可能となっている。

地域住民の生活をより豊かにするためには、個人のニーズに合った情報を提供することと、様々な形態で情報を提供することが望まれ、トランスコーディングはこれらを実現させるための技術として期待される。

トランスコーディング技術の概要は図3-5のとおりである。

図3-5 トランスコーディング概要図



エ トランスコーディング技術を構築するためのオープンソースソフトウェア

トランスコーディング技術やWeb2.0の源流はオープンソース（ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを、インターネットなどを通じて無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行なえるようにすること）にあるが、両市のポータルサイトを系統的に調査すると、このオープンソースソフトウェア（OSS）を流用してトランスコーディングが構築されていることが確認できる。（Apache、qmail、PostgreSQL、BIND、Tomcat、Eclipse、SOAなど）